

遊具やおもちゃがない公立保育園と、エアコンが一つもない小学校を応援しています。

貧しい地域や僻地の学校は、まるで行政に忘れられたかと思うほどに過酷な環境で学習を強いられています。先生の手作りポスターが貼られただけで、殺風景な保育園に出会いました。その翌日に、当団体が集めていた支援物資の中からぬいぐるみや玩具を持って園児たちに会いに行きました。まだ全然足りないのですが、この保育園を盛り上げたいと考えています。

エアコンが一つもない小学校に、中古のエアコンですが支給します、と校長先生に言ったところ、「私たちは我慢できるので、子供たちの共有スペースでもある理科室に設置をお願いします。」と言われました。私を知る町の教師なら、職員室に入れて欲しい、と言っていたでしょう。ました。気温 50 度を超える日もあるフィリピンでは、エアコンは子供たちの命を守ってくれます。これからも子供たちを支援していきます。



会報では書ききれない現地の活動の様子をほぼ毎日公開しています！

NEKKO では、毎日の活動を SNS で公開しています。活動の規模や内容が大きくなっているため、紙の会報では書ききれないことが多々あります。そこで数年前から SNS を使って日記のように写真と動画、短文で活動を綴っています。SNS で別事業に誘導したり、金銭や参加を強要することはありません。スマホをご利用の方、ネット環境にアクセスできる方は、NEKKO の SNS を覗いて見てください。友達リクエストを拒否することもないので、気軽に友達申請もお願い致します。

SNS では、動画を多く掲載するように心がけています。30 秒程度の短い動画で、現場の臨場感をお伝えできるよう工夫をしています。現場で見ている風景、見捨てられた子供たちの様子、日々の印象的な出来事などを紹介しています。ほぼ毎日更新で、会報には載せられなかった情報を公開しています。

LINE のアドレス
LINE コード: nekkokzuya



インスタグラムのアドレス
ngo_nekko



スレッズのアドレス
ngo_nekko



フェイスブックのアドレス



今のムード
Kazuya Tomita
1,024 フォロワー

私たちの活動現場を訪問しませんか？3泊4日6万円(航空運賃を含まない)から実現できます！

“私たちの活動現場に遊びに来ませんか？”

現在、私たちは現地訪問を受け付けています。最短は**2泊3日で4万円**からです。もちろん、最低金額の場合は活動現場やできること、宿泊宿が限定されますが、それでも十分に刺激的な体験ができます。これ以外にも、様々な形で現地訪問のアレンジをします。12泊13日というゲストも訪問されています。滞在日程や金額、行動内容、移動する場所などにもよりますが、ゲストのご希望を聞いて、可能な限り楽しく、刺激的なログラムを組み立てます。難しく考える必要はありません。ただ遊びに行きたい、アエタ族の村人と出会いたい、貧しい人々と遊びたい、患者さんのために尽くしたい、植林をしてみたい、国際ボランティアに参加してみたい、そんな単純な理由で良いのです。普通の旅行とは違って多くの学びある体験ができると信じています。**詳細は個別に相談をしますので、まずは気軽にメールをください。**

nekkocfp@gmail.com LINE の ID は「nekkokazuya」です。Instagram は「ngo_nekko」で検索してください。Facebook は「Kazuya Tomita」で、温泉でスマホをいじるニホンザルがプロフィール写真です。ご連絡をお待ちしています。



自分の手で古着や支援物資を貧しい人々に届けてみませんか？喜んでくれますよ。

皆さまのご支援に感謝いたします。賛助会員の皆さまに感謝いたします。

NEKKO は医療支援、少数民族支援、植林・森林保全事業、生計向上事業、女性の自立支援、学校教育の支援などの独自プログラムを長年にわたって実践しています。また日本からの現地訪問も積極的に受け入れて、誰でも参加できる活動を心がけています。NEKKO の活動は、皆様からの会費、支援、寄付によって運営されています。多くの方々のお問い合わせにより、**ネットバンキングにも対応できるようになりました。**下記の振込先の情報をご確認ください。**ゆうちょの当座預金口座です**のでご注意ください。皆様のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

寄付金、義援金を随時受け付けています。★会員になってください。★賛助会員を募集しています。(年会費)

個人…5,000 円 企業…10,000 円

銀行名	店名	店番	口座記号	口座番号	預金種目	金融機関コード	加入者名
ゆうちょ銀行	099 店	099	0098-0	179028	当座	9900	CFP

寄付・義援金の領収書について、ご希望の項目で発行いたします。その旨、Eメールにてお知らせ下さい。

nekkocfp@gmail.com / kazuya1999@gmail.com までお願いいたします。

三木郵便局

料金別納
郵便

ゆうメール

特定非営利活動法人 NEKKO のフィリピン活動報告・お知らせ等会報在中



注:会報が不要な方は、お手数ですがEメールにてお知らせください。

特定非営利活動法人 NEKKO

〒673-0433 兵庫県三木市福井 2093-16
Mangahan Resettlement, Brgy: Mangana-vaca,
Subic, Zambales, Philippines
☎0794-60-2052 国際電話 63-919-967-7771
Email: nekkocfp@gmail.com

注: NEKKO では無駄と思える経費の節約を慣行中です。この住所は支援物資送付用で、それ以外は Eメールか電話(転送)での連絡をお願い致します。

1 年の感謝と皆様の健康を祈る恒例のクリスマスカードは、アエタ族の子供たちと特別に支援を受けた子供たち、術後間もないアリーアちゃんも作ってくれました。



今年のクリスマスカードは、この1年間に皆様の支援を受けた子供たちを集めて作りました。古着や学用品を受け取った子供たち、粉ミルクの支援を受けた子供たち、心臓手術の支援を受けたアリーアちゃんなど、日ごろの感謝の気持ちをカードに込めました。アリーアちゃんの手術に支援をして下さった方々には、特別にアリーアちゃんが作ったカードも一緒にお届けしています。支援者の皆様へ、2025 年のご支援に感謝いたします。ありがとうございました。

2026 年も皆様と共に良い活動が続けられることを心から祈っています。全ての皆様へ、メリークリスマス！！

あなたは初めて靴を履いた日のことを覚えていますか？

日本のお下ガリの靴を、靴を履いたことがない貧しい人々に届ける「初めての靴プロジェクト」

「初めての靴プロジェクト」は、あるアエタ族の 48 歳のお母さんに会ったことがきっかけでスタートしました。支援物資の古靴を届けに行った時に、「これが私の人生で初めての靴だよ。」と言ってその靴を履いた足を見つめていました。この方には 2 人の娘がいて、彼女たちは靴を持っています。貧しい生活の中で、自分の靴を買うことは無かったけれど、“娘たちには恥ずかしい思いをさせられない”と頑張って貯金をして買い与えたそうです。学校の懇親会では、靴を履いていない自分が恥ずかしいから途中から参加して、途中で退出していました。

その出会いから、我々は現場に入るたびに様々な人たちに聞いてみました。「あなたは初めて靴を履いた日のことを覚えていますか？」と…。そうすると見えてきました。僻地に入れば入るほど、靴を履いたことがない人たち、子供たちが大勢いました。靴が嫌で履いていないのではありません。靴が買えないから…、靴が買えないという理由で通学を諦めた子供たちもいました。そうだ!日本のお下ガリの靴を集めて、貧しい地域の小学校で「初めての靴プロジェクト」を実施しよう!僻地の公立小学校で、サンダルや裸足で通学する子供たち全員にサイズが合った靴を贈ろう!支援者の皆様にお声掛けをして、子供のお下ガリの靴を大募集しました。届いた靴、その数なんと 70 人分!

初めて靴を履いた日、この子供たちは今日のことを忘れません。「初めての靴プロジェクト」を応援してください。



やみくもに靴を配るだけじゃダメなのです。自分の足に合う靴、通学に使えて、普段の遊びに使えて、この子供たちの宝物になる靴です。靴を履いたことがない子供たちが、まだまだたくさんいます。あなたの家にある古靴が、フィリピンの貧しい子供たちの宝物になります。靴がないから、通学を諦める、そんな悲しいことを減らすことができます。「初めての靴プロジェクト」に参加しませんか？

様々な事情で、家族から、医療から、行政の支援から見捨てられた子供たちがいます。障害を持って生まれた子供たち、貧しい暮らしの中で彼らの存在は後回しになりがちで、飢えて、汚れて、放置されることがあります。家族も自分たちのことで精一杯で、悪意はないが見て見ぬふりをされて置き去りにされる、そんな子供たちに出会いました。私たちにもできることがある。それが…

「見捨てられた子供の手を握るプロジェクト」、週一で彼らを訪問して1週分の粉ミルク、紙おむつ、日本のサプリメントを届けて、手を握るだけです。

家族だって本当は見捨てたくない。周囲の人たちだって本当は心配している。見捨てられる原因は貧困です。だから…

- 飢えさせない-----障害を持つ子供の栄養源である粉ミルクは、貧困家庭には負担になるぐらい高価です。だから粉ミルクを1週間分届けます。この子が飢えることがないように支援をします。
- 汚れを放置させない-----介護の手が回らないから、紙おむつを1週間分届けます。貧困家庭には紙おむつを買う余裕がありません。この子が汚れて、臭くなって嫌われないように紙おむつを支援します。
- 家族の世話を褒める-----障害を持つ子供の家庭は日々が闘いです。貧困家庭では、食事の用意や介護をすることが重荷になりがちです。だから、週一の訪問で家族が懸命に介護をしている様子を褒めます。家族だって自分の苦勞を誰かが見て、褒めてくれる奈なら、頑張れるのです。
- 孤独を感じさせない-----会話や自力歩行ができない、そんな子供でも実はわかっています。自分が家族の負担になっていることや世話をかけていること。だから、週一で訪問して手を握ります。君は独りじゃない。君に会いに来る人がいる。頑張れ！そんな思いを手を握ることで伝えます。

レイジェイ君の場合 ジェロス君の場合 クリス君の場合 セコス君の場合 サミュエル君の場合



重度の麻痺で介護なしでは生きていけません。固形物が食べられず、粉ミルクが必須です。アエタ族の貧しい暮らしで、市販の粉ミルクや紙おむつを購入することが困難です。行政の支援から見捨てられています。週一で粉ミルク・紙おむつ・サプリメントを届けています。



重度の麻痺で介護なしでは生きていけません。固形物が食べられず、粉ミルクが必須です。シングルマザーの貧しい暮らしで、市販の粉ミルクや紙おむつを購入することが困難です。行政の支援から見捨てられています。週一で粉ミルク・紙おむつ・サプリメントを届けています。



重度の麻痺で介護なしでは生きていけません。固形物が食べられず、粉ミルクが必須です。日雇いの貧しい暮らしで、市販の粉ミルクや紙おむつを購入することが困難です。行政の支援から見捨てられています。週一で粉ミルク・紙おむつ・サプリメントを届けています。



知能と自力歩行に問題があり、腸に異常があって異常に膨れています。手術が必要ですが、貧困ゆえに諦めています。飢えた経験から粉ミルクに執着します。実母に見捨てられました。週一で粉ミルク・紙おむつ・サプリメントを届けています。



全盲で生まれました。両親は若くして結婚（14歳で出産）したため、周囲に支援要請をする術を知らず、孤立していました。行政に繋ぎ、母親に大学進学の後押しをしています。全盲に対応した公的教育の可能性を探っています。週一で粉ミルク・サプリメントを届けています。

栄養失調の乳児に粉ミルク・サプリメントを届けています。



当団体では、積極的に栄養失調状態にある乳児や児童を探すことはありません。それはありふれた形で大勢いるからです。日々の活動の中で、偶然に行きついた貧しい集落や行政からの支援要請、飛び込みの救援要請に答える形で出会った乳児たちが対象になります。資源ゴミの収集で生計を立てる人々の集落、善意の他人から提供された物置に住む元ホームレス、アエタ族で母乳が出なかった若い母、僻地に住む人々など。一度に大量に粉ミルクを支給することはありません。必ず週一の訪問で体重測定を実施します。1週分の粉ミルクとサプリメントを支給しますが、基準体重になった乳児は支援卒業となります。しかし、雨が続きたり病気になったり家の屋根が壊れた、などの様々な事情で栄養失調状態に戻ってしまった場合、また支援の対象になります。週一で訪問するから、見捨てられた感覚がなく、安心してケチることなく粉ミルクを与えてくれます。そして、週一で訪問するから問題が正確に見えてきます。

見捨てられた子供の手を握るプロジェクトを応援して下さい！粉ミルクの購入にご協力をお願いします！
栄養失調の乳幼児に与えているサプリメントは、(株)山旺インターナショナルのバイオ・ノーマライザーです。
子供たちの睡眠が改善され、食欲が増進する、と大好評です。(株)三旺インターナショナルの皆様、ありがとうございます！

多くの方々にフィリピンの絶滅危惧の天然塩支援にご協力頂いています。

確実に塩を作り続け、安定した販売の方法を模索しています。この天然塩を守りたい。

生命の味がする天然塩作りが絶滅の危機に瀕している、と声を上げてから2年が過ぎました。フィリピン政府もこの天然塩に注目して、保存に乗り出しました…、がそれが頓珍漢で塩作りの職人さんを戸惑わせています。古式の天然塩なのに、政府が支援した道具が中国製の大量生産の壺やプラ製の貯水タンクだったり、ステンレス鍋やセメント製の竈、暑いだけのコンクリ製の屋根など、見事に使えないモノばかり。「これさえあれば、皆が塩作りを再開できるでしょう。」と、無言の圧力をかけられているようです。結果、これらの物資は野外に放置されたまま、使う人もおらず朽ち果てていくことになるでしょう。



フィリピン政府の誤解した支援



昔の道具と製法を支援することが正解です。

当団体では、今でも古式の道具と方法で塩作りを続けている人たちだけを対象に、その時に必要な支援を塩作りの職人さんたちと相談しながら継続しています。現在は5家族が7つの古式鉄鍋を使って、乾季の4～6か月の期間に塩作りを行います。今は雨季で塩作りは休止していますが、来期は1月からの塩作りを始める予定です。この天然塩は、「生命の味がする天然塩」として当団体が日本へ運搬していますが、日本では調理用塩の輸出入と販売に厳しい制限があり、指定業者ではない者の販売やできません。つまり、日本で販売ができません。当団体が手荷物で「お土産」として持ち込むモノだけで、入手する方法は「天然塩、欲しいです！」と言って頂くしかありません。だから…、この天然塩に興味がある方は声を上げてください。

“天然塩が欲しいです！”の人たちへお知らせ

販売はできなくても、譲渡することはできるのです。それはお土産として渡すことです。“天然塩が欲しいです！”の人たちへ、下記の方法でお届けできます。**数量と応募期間に制限がありますので、ご注意ください。**

まず、**12月22日までに**Eメールかインスタで「天然塩が欲しいです！」とお知らせください。エクスパックの600円サイズでお送りできますので、**当団体の寄付口座に600円の送料を振り込んでください。**手荷物でスーツケースに入れて持ち込みます。違法ではありませんが、現行法の改正や不測の事態で持ち込めなくなる可能性もあります。今回の数量は写真の通りになる予定です。これらは収益事業ではありません。この天然塩の素晴らしさが分かる人へお届けしたい。そして、この天然塩に出会いに来て欲しいと願っています。



行政の支援が届かない人たちがいます。弱い人たちです。貧しいから、声が小さいから、我慢するから…
ならば私たちが届けます！行政がやらないなら、私たちがやります！

誰も助けてくれないことが当たり前、そんな風に思っていた人たちは。行政は声が大きい人や、コネがある人を優先します。それ自体を責めるつもりはありません。行政の財源も限りがある以上、そこから零れ落ちる人もいます。問題は、零れ落ちた人たちを忘れてしまうことです。心ある区長が相談してくれました。「支給される車椅子は2台、元議員の老いた家族が持つていく。本当は麻痺の子供たちに渡したいのに…。車椅子を区に寄付されると、また元議員たちが持つていくから、あなたの団体が麻痺の子供に直接寄付できないか？」…行政の闇の部分の晒したうえで、本音を言ってくれる。これに答えない理由はありません。



コネや縁故に関係なく、本当に必要な人に、本当に必要な機材が届くように、区の行政(バランガイ)と協力しながら車椅子や歩行補助器を支給しています。フィリピンにおける民間の寄付とは、行政が窓口になり、行政が受託して、行政の判断で支給します。ここに闇があり、本当に必要な人よりも、政治力がある人が優先されてしまう実情があります。当団体は、行政と裏で手を握り、本当に必要な人々に届く方法を採用しています。必ず当人に目視とインタビューで確認した上で支給します。むやみに配布することはありません。ピンポイントで、適格確実に届きます。行政がやらないから、行政にできない方法で私たちがやっています。

手術費用を稼ぐためにユーチューバーになったアリーアちゃん、14 歳。

皆様の支援と応援で、生きるための挑戦に勝利しました！

先天性心疾患・心室中隔欠損症・大動脈弁下との闘い、**心臓手術は成功しました。**

アリーアちゃんを支えて下さった全ての支援者の皆様へ、

心からの感謝を申し上げます。本当にありがとうございます！

アリーアちゃんの手術の日は、かなりの急で決まりました。「腕のたつ外科医の予約が取れた！」がその理由でした。大急ぎで準備をして、早朝 4 時発でマニラのハートセンター（心臓専門病院）に向かいました。手術・入院費用を支払い（全額前払いが原則）手続きが終わったのが昼前でした。ここから先は、退院するまで付き添い 1 人（母親）しか病室に入れません。

手術前の各種検査で 1 日、その翌日の早朝には手術が始まります。

人工心肺に繋いで、約 1 時間は心臓を止める、と聞いています。手術の詳細をアリーアちゃんは知っています。しかし、怖がることなく、その日を迎えました。手術の当日、私は心配で何も手につかないので、植林でピナトゥボ山の麓まで行って、朝から汗だくで苗木を植えていました。



手術の前夜、病室にて



入院手続き中と病室へ移動する様子」、正装で入院に臨みました

「今頃、手術台だろうな…」「もう手術、終わったかな…」「何か不測の事態とか…」と気が散って、植林にも身が入らない。…ダメだ。今日は下山するよ！と仲間に声をかけたとき、アリー



ICU でまだ麻酔が効いている

ーアちゃんのお母さんからメッセージが届きました。「今、手術室から出てきて ICU に行きました。」って。手術自体は無事に終わっただけ。

翌日、こんな写真がお母さんから送られてきました。-----> ICU の小窓から覗いて写真を撮ったそうです。支援をしてくださった皆様へ、アリーアちゃんの無事を伝えたかったらしいです。

それから間もなくして、外科医から「余程の事故がない限り、この手術は成功です。」と言われたそうです。ここで支援者の皆様へ、手術が成功した、との報告ができました。手術から 5 日目に退院の日を迎えました。



退院の日、執刀医のキニョン女史に感謝を伝えてハートセンターを後にしました。命を取り戻す激動の 1 週間でした。

退院から2週間目、主治医の先生の診察がありました。その結果は、術後の経過が驚異的に良い！とのこと。この時点で95%の完治を保証する。明日からでも通常の通学が可能だと言われました。

アリーアちゃんは、学校復帰後に体調が完全に元に戻ったことを体感した時点で、最後のユーチューブ動画を撮影するそうです。手術を支えて下さった支援者の皆様へ感謝の気持ちをお届けする、

とのことです。その後は夢である医師への道を目指して学業に専念します。

当団体でアリーアちゃんの手術支援を決めてから、寄付以外にも様々な応援が届きました。札幌在住の支援者様は、アリーアちゃんのユーチューブ動画のタイトルイラストを描いてくださいました。アリーアちゃんが学校の制服を着た写真から描き起こし、背景には彼女の自宅



前の風景を使いました。完全な独自のイラストでした。

多くの人たちが直接アリーアちゃんを訪問して、応援してくださいました。皆さまの支援とご協力に感謝をしています。本当にありがとうございました。



<https://www.youtube.com/@kazuyatomita1136>
KazuyaTomita のチャンネルに全動画をアップ中！

収入	手術費用の内訳など	支出
募金達成額-----418,000 ペソ (113 万円)		
行政の支援-----250,000 ペソ		
	手術費用・入院・検査費用-----700,000 ペソ	

不足分----- 31,900 ペソ

注) 不足分は当団体の活動資金(会員様からの会費)から充当しています。



日本からたくさんの方々がアリーアちゃんを応援するためにやって来てくれました。本当にありがとうございました。

命を繋ぐ唯一の方法、手術のチャンスを待っている子供たちがいます。
様々な事情で手術まで踏み切れない事情があります… 今は奇跡を祈るばかりです。

セヨス君、15 歳。

自力歩行や会話が困難で、要介護。
生まれつきの障害があるため行政の支援枠が取れず、手術費用が全額負担で高額(約 170 万円)になる。

イリウス(腸閉塞)で腹部が異常に膨らみ続けている。残された時間は長くないと予想される。



アルテアちゃん、17 歳。

膝が硬化して自力歩行ができない。生まれつきの障害があるため行政の支援枠が取れず、手術費用が全額負担で高額(約 200 万円)になる。

ファロー四徴症と肺疾患で、常に低酸素状態・残された時間は長くないと予想される。



ケンジ君、5 歳。

シングルマザーの母親が特殊労働を始めて十分な収入があるはずだが、浪費も始まって、子供の治療費の貯蓄をしない。行政の支援を得ることは可能だが、家族が手術に積極的ではない。

ファロー四徴症、常に低酸素状態・残された時間は長くないと予想される。



医薬品・医療器具の支援物資を受け取り中止しています。

平素、支援物資を集めて送り届けて下さる皆様、現在 NEKKO では医薬品・医療器具の受け取りを中止しています。これから送ることを検討していた方々は、お手数ですがその医薬品を出された薬局へ過剰分がある旨を相談してください。引き取って貰える上、次回からの投薬の量を調整してくれます。

当団体への医薬品の寄付について、しばらく再開の予定がありません。ご理解をお願いします。

全校生徒 70 人足らずの山の小学校に図書室を作りたい！

マバト小学校は分校でした。本校がある場所まで子供の足で徒歩 30 分以上を要する山奥の村に住む人々が、教育省や市役所に掛け合っ出来た小さな学び舎です。様々な政治家の支援で校舎がセメント製になり、狭いながらも屋根がある国旗掲揚場も出来ました。分校という名称は取れましたが、実質は本校の後にさがちで教材や改装予算が十分に届かず、生徒数も少ないため耐えることを強いられています。生徒の半分以上がアエタ族で、この小学校ではアエタ族とイロカノの人々が仲良く机を並べて学んでいて、異民族間の差別や喧嘩は皆無という、心優しい子供たちの小学校です。

この小学校には、当たり前にあるはずの図書室(ライブラリー)と理科室(サイエンスルーム)がなく、教育省の定期視察をやり過ごすためだけの手作り掘っ立て小屋を「図書室兼理科室」と称しています。窓や扉、セメント床が無く、雨が降れば内部は水浸しになります。ここで子供たちが真面目な学習を出来るはずもなく、使い古しの捨てても良い教科書だけが本棚にある状態です。

通常の小学校の場合、図書室と理科室が別々に存在していて、書籍や学習機材などが安全に保存されるだけでなく、エアコンが設置されていて、気温が 50 度を超える日などは、これらの教室が子供たちを熱中症から守る緊急避難の部屋になっています。



マバト小学校の場合はどうでしょう？気温が50度を超える猛暑の日…、暑い時間に子供たちを帰宅させます。暑いから授業が止まり、その暑い中を自宅まで歩いて帰る。家に着く頃は熱中症になっています。次の日から、登校断念が急増するのです。

市の教育省や市長は予算不足を理由に、逃げ口上を繰り返すのみです。“いつか建設する”、“いつか建設する”、と言い続けて5年以上になるそうです。

マバト小学校の図書室の全景、窓と扉は無く土間で掃除用具の倉庫に見える。手作りのボロ小屋のため授業で使うことはなく、誰もこの教室に愛着がありません。

誰も助けてくれないのならば、私たちが助けたいです！

この学校でただ一つのエアコン付きの部屋、コンクリ製の図書室兼理科室を建設します。

5m x 10m の小さな図書室を作ります！

エアコンを付けることで緊急避難所や医務室としても使用できます！

募金の目標金額：150万円（エアコンも設置します！）

資材費 80万円・人件費 50万円・エアコン購入と設置費 10万円・机と椅子購入費 10万円

募金にご協力を頂いた方には、マバト小学校の生徒たちからお礼カードをお送り致します。数人のグループで作成しますので、その時の様子の写真もお送りします。

“初めての靴プロジェクト”にご協力をお願いします！

「あなたは初めて靴を履いた日のことを覚えていますか？」この子供たちはその日を忘れません。

フィリピンの貧しい地域に靴を履いたことがない子供や大人が大勢います。彼らは裸足で暮らし、ピースンで学校へ通います。町へ出る時、お出かけする時は靴の貸し借りをして皆で使い回します。「靴が無くても幸せだ！」と言いますが、本当は靴が高価過ぎて耐えています。貧しいから靴を諦める、そんな状況を簡単に変える方法があります。あなたが履いていた靴、あなたが履けなくなった靴、あなたが不要になった靴、まだ使えるけど役目を終えた靴たちを、フィリピンの貧しい人々に贈ってみませんか？

「初めての靴プロジェクト」は、破れや過剰な汚れがない日常履きできる運動靴やスニーカーを募集しています。大人用、子供用、乳幼児用、どんなサイズでも対応しています。このプロジェクトで靴を受け取る人たちは、初めて靴を履いた今日のことを忘れません。



- ・主に募集しているのは乳幼児、児童の運動靴(スニーカー)ですが、大人でも靴を持ったことがない人は大勢います。
- ・靴と一緒にサイズが合う古着も手渡しています。古着も合わせて募集しています。
- ・破れや汚れがひどいモノ、経年劣化で靴底がひび割れたモノ、臭いモノ、片方しかないモノはお断りしています。
- ・グループや会社のお仲間で大量の靴を集められた場合、その旨をお知らせ下さい。小学校等で纏めて配布します。
- ・配布後は、別紙にあるSNSにて随時公開をしています。お手数ですが、そちらで送って頂いた靴を探してください。

古着や使い古した運動靴(スニーカー)を支援物資で送ってください。

支援物資の送り方にご注意ください。費用の負担をお願いしますが、確実に現場へ届きます。

国内事務局に送って下さい。年に2度の仕分けをして、再梱包の上で民間の小口輸送会社を利用して現地に送っています。その際には大変に恐縮ですが、仕分け梱包費、再輸送費として**ミカン箱1つ程度の大きさに対して1000円～2000円程の費用負担をお願いしています**。この負担金は支援物資の箱の中に現金か郵便切手を同封して下さい。また、荷物の大きさはミカン箱程度の大きさにして、**重くないようご注意ください**。荷物の中継は高齢の者が一人に対応しています。大きい荷物や重い荷物は運搬だけでも重労働になります。支援者の皆さまに、余分な支出をお願いすることになり、非常に心苦しいことですが現状では民間の小口輸送会社を使うしか支援物資を送る方法がありません。そして、NEKKOには支援物資を再梱包して、輸送する人材はいますが、経費を捻出することができない状態です。

少しでも皆さまの負担を軽くするため、以下のことに注意して下さい。

物資を厳選して下さい。緩衝材や現地で捨てても良いモノを送らないで下さい。箱を小さくして下さい。輸送料金は大きさに比例します。重さではありません。支援物資のおかげで助かった命があります。支援物資があったから諦めずに頑張れた人もいます。これからも皆さまからの支援物資を大切にしていきます。

国内事務局への送り先：

住所：〒673-0433 兵庫県三木市福井 2093-16 ☎0794-60-2052 (転送)

Eメール：nekkco.cfp@gmail.com

宛て名：NEKKO、富田一也 注：支援物資の箱を大きく・重くしないようご注意ください。

個別対応が必要な場合は、メールにてお知らせください。可能な限り、対応を検討いたします。